

○本県では近江米のブランド力強化や琵琶湖の保全に資する取組として、オーガニック栽培の取組拡大を図っている。

○水稲オーガニック栽培では、除草効果が不安定なため収量が低く、取組面積の拡大が進んでいない。

○そこで、除草技術の現地実証ほを設置し、機械除草を中心に複数回代かき、深水管理、米糠散布を組み合わせることで除草効果の安定を図り、水稲オーガニック栽培の取組拡大に取り組んだ。

具体的な成果

除草技術の現地実証

■①複数回代かき、②米糠散布、③機械除草、④深水管理の除草技術に取り組み、その結果、除草効果が安定し、単収420kg/10a以上が実証できた。

■また、実証技術を研修会等で周知を図り、新規取組7戸に機械除草技術を導入することができた。



①複数回代かき



②米糠散布



③機械除草



④深水管理

機械除草技術の取組生産者と技術導入面積の拡大

■機械除草技術に取り組むために新規に乗用除草機を導入した生産者8戸に対して、機械除草技術の導入をすすめ、取組面積37haの拡大を図った。

普及指導員の活動

平成30年度

■除草技術の実証ほを県内3カ所に設置
■実演会(6回)や現地研修会(1回)、技術研修会(1回)を開催



機械除草実演会

令和元年度

■除草技術の実証ほを県内3カ所に設置
■実演会(6回)や技術研修会(1回)を開催



水稲オーガニック栽培技術研修会

令和2年度

■実演会(3カ所)や技術研修会(1回)を開催
■水稲オーガニック栽培マニュアルを作成



令和3年(2021年)3月

滋賀県

令和3年度

■実演会(2カ所)や研修会(1回)を開催

普及指導員だからできたこと

・実証農家や除草機メーカー等と連携し、実証ほを設置し、機械除草の実演会で効果を実証できた。農家自ら実証技術の効果を確認することで技術導入を進めることができた。

・行政と連携し、補助事業等の活用を農家へ提案し、機械除草の導入を進めることにつながった。

別紙（詳細資料）
滋賀県

水稻オーガニック栽培の安定生産

活動期間：平成 30 年度～令和 3 年度

1. 取組の背景

本県では近江米のブランド力強化や琵琶湖の保全に資する取組として、化学合成農薬や化学肥料を使用しないオーガニック栽培の取組拡大を図っているが、除草効果が不安定なため収量が低い課題があった。

そこで、水稻オーガニック栽培の減収の主な原因である雑草対策について、機械除草を中心とした除草体系技術の導入に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

（1）機械除草実演会の開催

乗用除草機による機械除草の実演会を行い、機械除草を行うタイミングや除草機の調整方法について実演し、除草効果を実感してもらうことができた（2回、延べ25人）。



機械除草実演会

（2）研修会の開催および技術導入支援

技術の普及を図るため、県内の水稻オーガニック栽培取組農家や栽培希望農家、JA営農指導員や普及指導員等を対象に水稻オーガニック栽培技術研修会を開催した。研修会では除草技術のポイントや現地実証の成果を紹介し、技術導入を進めた（2回、延べ60人）。



水稻オーガニック栽培技術研修会で除草技術を紹介

3. 具体的な成果（詳細）

除草技術をまとめた「オーガニック近江米の手引き」（R2 年度）を活用して、水稲オーガニック栽培の技術普及に取り組んだ。水稲オーガニック栽培の雑草対策として機械除草を中心に複数回代かき、深水管理、米糠散布に取り組んだ結果、収量は 400～430 kg/10 a を確保することができた。

また、本除草技術を技術研修会等で周知し、研修会後のアンケート調査では、オーガニック栽培に取り組みたい生産者が新たに現れ、機械除草に取り組むため 3 戸（R3 年度）の生産者が乗用除草機を導入するなど、確実に水稲オーガニック栽培の取り組みが広がっている。



機械除草を中心とした除草体系技術マニュアル

4. 農家等からの評価・コメント（近江八幡市 U 営農組合長）

機械除草を中心に複数回代かきや深水管理、米糠散布による除草効果が実感できた。また、技術マニュアルにまとめられている機械除草のタイミングを参考に除草作業を適期に行うことができた。

5. 普及指導員のコメント（滋賀県農業技術振興センター 主幹 中橋富久）

水稲オーガニック栽培は生産者個々の経験と工夫で取り組まれてきたが、機械除草を中心とした除草対策の基本技術をマニュアルにすることで新たな生産者が取り組みやすくなった。また、研修会等で広く周知するとともに、乗用除草機の補助事業等の活用を提案することで、技術の普及につなげることができた。

6. 現状・今後の展開等

研修会等のアンケート調査では 9 名の生産者が水稲オーガニック栽培の取組を志向していることから、引き続き個別指導や現地研修会等を開催し、機械除草を中心とした除草技術の導入による水稲オーガニック栽培の安定生産を支援し、取組面積の拡大を図っていく。